

令和2年度
教育委員会事務事業に係る外部評価表
(令和元年度事業対象)

○実施日 令和2年8月24日(月) 午前10時00分

○場 所 せたな町役場 第3会議室

○外部評価委員

北檜山区豊岡 千葉 憲 之 (欠席)

北檜山区丹羽 阿 部 紹 子

瀬棚区本町 鷓 入 泰 宏

大成区宮野 梶 田 昌 好 (欠席)

令和2年度せたな町教育委員会(学校教育)実施事業評価一覧表(令和元年度事業対象)

学校教育

事務事業(評価項目)		実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価
					R 1
1	教育委員の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の開催(11回) ・学校訪問(認定こども園1園、小中学校全7校) ・全道・管内研修会出席 ・せたな町総合教育会議(中止) 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会での案件審議、学校訪問での意見交換、研修会への参加など活動が円滑に行われた。 ・新教育長制度に移行後も円滑な活動が図られた。 	自己評価どおりで良い	A
2	学校経営の円滑な推進	<ul style="list-style-type: none"> ・定例校長会議における教育長示達 ・各月毎の学校経営の重点及び学校経営報告書の提出 ・教育課程の適正な管理及び新学習指導要領移行措置の実施 ・教職員の服務規律保持の指導 ・生涯学習指導主事の学校訪問(各学期毎) 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月開かれる定例校長会議において、教育長示達の中で教育行政執行方針の具現化に努めていた。 ○各学校から毎月「学校経営報告書」、各学期末には「学校運営に係る自己点検票」、学年末には「教育執行方針達成度調査」の提出を求め、各校の実践事項や実情の把握に努めることができた。 ○教職員の服務規律等の厳守については、定例校長会議・教頭会議の中で資料を用いて指導が図られた。 ○町生涯学習指導主事の学校訪問は、各学期毎の定期訪問(計21回)、教育局指導監訪問・教育局指導主事訪問(計28回)、必要に応じて随時実施し、各校の学校経営・学習指導・生徒指導等に関わる指導・助言を行うことができた。 ○令和2年度小学校、令和3年度中学校で全面実施となる新学習指導要領の移行措置期間における移行措置内容の実施に向けた指導・助言を行うことができた。 ・新学習指導要領の全面実施に向けた準備が各校で確実に行われた。 ・新学習指導要領の移行期間に向けた準備。 ・教職員の服務規律指導のさらなる徹底。 	自己評価どおりで良い	A
3	学力の向上対策	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査及び町独自に標準学力検査を実施 ・「せたな町学力向上改善プラン」に基づく学習指導の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査については、採点結果を分析し、日常の学習指導や各学校の「学力向上改善プラン」作成に生かした。 ・各学校においては、小学校年度末・中学校年度始め実 	自己評価どおりで良い	A

		<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書室支援員の配置による学校図書室の有効活用の支援 ・家庭と連携した家庭学習の習慣化について、各学校での取り組み推進に向けての指導・助言 ・ICT機器の活用による授業改善に向けた環境整備 ・チャレンジテストへの全校参加と学力向上に向けた活用 ・学習支援員の配置 	<p>施の標準学力検査や全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教育委員会作成の「せたな町学力向上改善プラン」をもとに学校独自の「学力向上改善プラン」等を作成し、学習指導等の改善に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校、日課に朝読書の時間を入れるなど、児童生徒の読書活動の習慣化に努め、また、学校図書室支援員を活用し、学校図書室の環境が整備され読書活動が活発になってきた。 ・各学校で実物投影機やパソコンなどを活用した授業が適切に行われ、児童生徒の学習意欲が高まっている。また、各小学校においては来年度の新学習指導要領全面実施により開始されるプログラミング教育へ向けの研修等の取組が行われた。 ・全国学力調査の結果から、小学校は国語・算数とも全国平均を若干下回っている。中学校は、国語・数学は全国平均を上回っている。また今年度初めて実施された英語については全国平均を下回った。各学校では課題を明確にし、学力向上プランに基づき、授業改善や家庭学習の充実に向けた取り組みが行われている。 ・全国学力・学習状況調査等の結果に基づいた学力向上プラン作成と実践。家庭と連携した学習習慣定着の取組の推進。 		
4	道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳科の時間」の改善・充実に向けての指導 ・道徳科の教科書、北海道版道徳教材「きたものがたり」の活用に向けての指導・助言 ・参観日等における「道徳科の時間」の授業公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の教科書「きたものがたり」を活用した「道徳科」の授業の改善・充実については、町内全校において日常実践及び校内研修等で取り組みがされている。 ・参観日等における「道徳科」の授業公開については、年間計画に位置付けられると共に、授業参観等において公開され、学校と家庭の連携した取り組みが進められた。 ・令和元年度中学校で全面実施となった「道徳科」の円滑な実施が図られた。 ・「考え、議論する道徳」の授業の工夫。 	自己評価どおりで良い	A

5	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会の年3回の開催と連携協議会だよりの発刊 ・「個別の教育支援計画及び指導計画」の作成 ・「特別支援教育支援員」の配置 ・W I S C I V研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会を年3回開催し、教育・福祉・行政等の関係機関が連携し、実態把握・情報交換を行うとともに、連携協議会だよりを年3回発刊し、保護者・地域への啓発活動を行った。 ・就学前の幼児を対象にした就学児知能検査、2次検査、保護者への通知、必要に応じての保護者との面談、教育支援委員会での審議の有無等の流れが適切に行われた。 ・当該学校では、特別支援学級在籍者を中心に、長期的支援を見据え「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成が定着している。 ・特別支援教育支援員は、町内4校に計13名が配置され、特別な支援を要する児童生徒の生活・学習支援を行い、児童生徒のつまづきなどに随時対応することができた。(北檜山小学校7名、瀬棚小学校1名、久遠小学校2名、北檜山中学校3名) ・就学時の2次検査の検査者を町内の学校の教員の中から確保するため、元年度は今金高等養護学校の教員を講師にW I S C I V研修会を実施し、2次検査を無事に終え、教育支援委員会につなげることができた。 ・特別支援教育連携協議会をととして、幼・保・小・中・高・養護学校と福祉等の行政機関が連携することで、情報交換、啓発活動などが綿密に行われ、町内の特別支援教育が適切に行われている。 ・各学校・家庭において、特別支援教育支援員の配置要望が多くなってきていることから、2次検査の検査者の確保・育成に努める。 	自己評価どおりで良い	A
6	外国語指導助手（ALT）等の派遣	<p>○ALT1 各中学校週3回派遣 (月…北檜山中 火…瀬棚中 木…大成中)</p> <p>○ALT2 各小学校(5・6年)週4回派遣 (月…瀬棚小・北檜山小 火…久遠小・若松小 水…北檜山小 木…瀬棚小)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する小・中学校については、ALTの空き時間を活用しての追加派遣をし、ネイティブ英語に触れる機会やコミュニケーション能力の育成に努めた。 ・平成30・31年度は、新学習指導要領の移行期間で、小学5・6年生は英語の教科化、小学3・4年生は外 	自己評価どおりで良い	A

		<p>○巡回指導教員 各小学校（3・4年）週5回派遣 （月…瀬棚小・北檜山小 火…久遠小・若松小 水…北檜山小 木…瀬棚小、金…久遠小・若松小）</p> <p>○英語指導助手 各小学校 （3・4年、一部5・6年）週4回派遣 （火…若松小 水…北檜山小、木…瀬棚小、 金…久遠小・若松小）</p>	<p>国語活動が始まり、ALT2名、巡回指導教員・英語指導助手と併せて4名体制とし、中学校3校には、週3回ALT1名を派遣し、小学校4校には、3～6年生の英語の授業と外国語活動の全時間にALT1名と巡回指導教員・英語指導助手を派遣することができた。</p> <p>・小学校・中学校とも、ネイティブな英語に触れる機会があることで、児童生徒の学習意欲が高まっている。また、小学校で令和2年度から本格的に始まる外国語科の指導に向けて巡回指導教員制度を活用し、授業力・英語力の向上に努める。</p> <p>・子どもたちの外国語を使ったコミュニケーション能力を育成するための外国語活動以外でのALTの活用。</p>		
7	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校での全教職員による生徒指導体制の確立 ・道教委のスクールカウンセラー派遣 （拠点校：北檜山中学校・年12日、派遣校：6校・各年1日） ・生涯学習指導主事への相談（学校訪問及び随時） ・不登校児童生徒の「指導要録上の出席扱い」に係るガイドラインの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校においては、いじめ未然防止基本方針をもとに、管理職を中心に組織的な対応が進められた。 ・いじめ対策については、全校で年間最低2回の「いじめアンケート」や教育相談が実施され、未然防止・早期発見・早期対応の取り組みが行われた。 ・今年度の「いじめアンケート」から、「嫌な思いをしたことがある」の回答が28件あったうち、認知件数が2件あったがすぐに対応をして年度内で解消されている。 ・北檜山中学校へ道教委のスクールカウンセラー派遣を継続し、学校と連携して不登校生徒の対応に当たった。 ・今年度の町内で、90日以上欠席の不登校児童・生徒数は、11名（小学校1名、中学校10名）であった。30日以上となると、さらに7名増え（小学校4名、中学校3名）継続した指導支援が必要である。 ・町教委としては、不登校児童生徒の状況について毎月報告を求め、実態把握に努めるとともに、町指導主事が必要に応じて各校を訪れ、いじめ・不登校について 	自己評価どおりで良い	B

			<p>の情報収集や対応等について指導助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の「指導要録上の出席扱い」に係るガイドラインを作成し、フリースクール等の活動及び自宅においてICT等を活用した学習が、指導要録上の出席扱いとするにふさわしい学びとなっているかを、校長が総合的に判断するための目安を示した。 ・校内で生徒指導に関する研修会等を開催し、教職員同士の情報を共有し、共通理解を図っている。 ・校内で生徒指導に関する研修会等を開催し、教職員同士の情報を共有し、共通理解を図っている。また、月例の校長会や生涯学習指導主事への相談を通して町教委との連携が図られた。 ・不登校生徒の解消に努める。 		
8	教職員の資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校における校内研修の促進 (檜山教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問) ・せたな町教育研究会の充実 (町教育研究大会の開催、今金町との2町授業交流会サークル活動の活発化、講演会の実施) ・町内各種教育団体への支援 (生徒指導連絡協議会、特別支援学級教育研究会、へき地複式教育研究会等) ・北海道教育研究所、檜山教育局主催の研修講座への参加 	<p>○各学校では、研修部を中心に研修計画が立てられ、それに沿って校内研修が推進されていた。</p> <p>○教育局指導主事及び町指導主事による学校指導訪問は、予定どおり進められ、各校の経営状況や児童生徒の実態把握、その後の指導・助言に大いに役立った。</p> <p>○町教育研究会及び町内各種教育団体の活動は、予定どおり活発に行われ、教職員の資質向上に寄与した。</p> <p>○講演会を実施。 (1/30 講師：立命館小学校 教諭 小笹大道 氏 参加者 61名)</p> <p>○各種研修事業については、道研、ミニ道研、学力向上に関する研修会、生徒指導研などに参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度より各学校においてアレルギー研修を実施。今年度、町教研の業力向上を単独の目的として新たな組織として講演会を行い、各学校の授業改善に役立てた。 ・研修へのさらなる参加を促す。新しい研修機会の拡充と支援。 	自己評価どおりで良い	B
9	食育教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養教諭による食育推進事業」 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校において、栄養教諭による食に関する 		B

		<p>(学校栄養教諭による各学校における「食に関する指導」及び「栄養指導」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習実習生の受け入れ ・学校給食だよりの発行(毎月) ・安全安心な地元食材の活用 ・せたな産食材を使用した「ふるさと給食」の提供 ・町内のアレルギー児童生徒の把握と必要に応じた対応 	<p>指導の授業を実施し、児童生徒の食に対する意識を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験実習生を受け入れ、調理業務の体験実習を行い、普段食べている学校給食の調理工程を学習する機会を提供できた。 ・「ふるさと給食」として年2回、地元食材を使用した給食を提供し、ふるさとの恵みに感謝する心を育むことができた。 ・給食センターと学校が連携して、食物アレルギーをもった児童生徒の情報を共有し、給食時間の事故の未然防止を図ることができた。 <p>・食育教育の推進を図ることができた。</p> <p>・安心安全な学校給食の提供に努め、栄養教諭を中心に食育の推進を図る。</p>		
10	幼児教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育についての共通理解に基づいたきめ細かな指導の工夫 ・幼児教育と小学校教育の共通性や独自性を明確にした相互の連携や研修などの促進 ・指導主事の訪問(認定こども園) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育連携協議会をとおして、行政機関が連携し情報交換・啓発活動等が綿密に行われた。 ・交流学习の実施。(学芸会総練習の見学。年に数回、小学校への出向き交流。) ・各小学校で新入児童1日体験入学の実施。(2月) <p>・連携し情報交換・啓発活動等が綿密に行われた。</p> <p>・引き続き、認定こども園や保育所との連携を図る。</p>	自己評価どおりで良い	A
11	学校健診事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒内科検診 408名実施 ・児童生徒歯科検診 405名実施 ・児童生徒尿検査 414名実施 ・児童生徒眼科検診 400名実施 ・児童生徒耳鼻咽喉科検診 225名実施 ・児童生徒心臓(心電図)検診 84名実施 ・中体連駅伝選手心臓検診 16名実施 ・就学時検診 42名実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と関係機関との連携の下で、学校保健法に定められている各種健診を計画的に実施し児童生徒の健康管理に努めることができた。 <p>児童生徒が内科・歯科検診を欠席した際に、保護者が病院・診療所へ直接連れて行くことで対応することができた。</p> <p>・各種健診を計画的に実施出来ている。</p> <p>児童生徒が内科・歯科検診を欠席した際の対応をすることができた。(保護者が病院・診療所へ直接検診。)</p> <p>・スムーズに実施できるよう、学校・病院・教委で連絡を密にする。</p>	自己評価どおりで良い	A

1 2	地域に開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・経営方針の説明、学校だよりの配布 ・学校支援地域ボランティアの人材を外部講師として招聘 ・学校運営協議会の設置（全小中学校7校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校では、年度当初の参観日等で経営方針の説明を行うとともに、学校だより等で日常の児童生徒の様子を保護者や地域に知ってもらえるよう努めた。 ・学校運営協議会を開催し、学校経営等について意見をいただき、地域の意向を把握した学校運営が行われた。 ・学校支援地域ボランティアについても、各校の計画に沿って積極的に活用された。 ・久遠小・大成中について、令和元年度学校運営協議会を設置することができた。 ・令和元年度中に、久遠小・大成中の学校運営協議会が設置され、町内全学校に設置することができた。 ・全学校に設置された学校運営協議会の意見を取り入れた学校運営等の指導・支援。 	自己評価どおりで良い	A
1 3	子どもの安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校での「危機管理マニュアル」及び「火災や地震時の防災訓練」の点検・見直し、及び学校の立地条件に応じた火災・地震・津波・洪水などの実践的な対処や訓練の実施に向けての指導・助言 ・交通安全教室・防犯教室・薬物乱用防止教室等の実施に向けての指導・助言 ・各区毎に地域の関係機関・団体との情報交換を行い、町内安全パトロール実施 (子どもの安全を守る連絡協議会～夏休み前に開催) (生徒指導連絡協議会～各学校の決まり確認、子どもの様子等の情報交流、研修会の開催) ・せたな町通学路安全推進協議会を設置し、「通学路交通安全プログラム」を作成、プログラムに基づいた、町内各学校の通学路の確認・点検・改善 ・北檜山小学校を拠点校とした北海道実践的安全 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校における「危機管理マニュアル」の点検と見直しが行われ、災害時における立地条件に即した対処・訓練が行われた。 ・各学校では、防犯訓練・防犯教室など実際の場面に即した訓練を実施することで、危機管理下における児童生徒の安全確保が図られた。 ・各区内の関係機関・団体と連携しながら、登下校時や帰宅後の安全指導、及び祭典時の巡回指導などに努めた。 ・せたな町通学路安全推進協議会を基にした実践委員会による北海道実践的安全教育モデル構築事業において、北檜山小学校通学路の合同点検や交通安全教室、交通安全に係る公開授業の実施などにより、交通安全に対する児童の意識の向上や関係機関・地域との連携体制の充実、要対策箇所への改善策の検討・実施をすることができた。 ・瀬棚小学校で、各学年において関係機関や地域ボランティアと連携した「1日防災学校」を実施し、児童の 	自己評価どおりで良い	A

		<p>教育モデル構築事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬棚小学校における1日防災学校の実施 	<p>防災意識の向上が図られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の登下校の安全確保に係る北海道実践的安全教育モデル構築事業の実施にあたり、既存組織である「せたな町通学路安全推進協議会」を基に本事業を推進したことにより、関係機関との連携や通学路の要対策箇所への対応、交通安全教育の取組の充実が図られた。 		
14	児童生徒への就学援助	<ul style="list-style-type: none"> ・要保護世帯 小学生 4名 中学生 0名 計 4名 ・準要保護世帯 小学生 46名 中学生 28名 計 74名 <p>入学前新入学児童生徒学用品費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準要保護世帯 小学生 6名 中学生 4名 計 10名 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携のもとで、経済的援助を必要とする世帯に対して学用品費・修学旅行費等への支援ができた。 ・経済的援助を必要とする世帯に対して支援することが出来た。 ・引き続き実施する。 	自己評価どおりで良い	A
15	学校教育環境の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> ・久遠小学校トイレ改修工事 ・久遠小学校体育館暖房パネル改修工事 ・瀬棚小学校ガラスブロック改修工事 ・大成中学校屋上防水等改修工事 ・瀬棚中学校高圧電気設備改修工事 ・瀬棚中学校普通教室外部建具改修工事 ・北檜山中学校自動火災報知設備改修工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでいる学校はあるが、児童生徒が安全安心な学校生活を送るため、必要箇所の修繕については随時実施し適正な維持管理に努めた。 ・課題としていたトイレの洋式化や多目的トイレ設置・バリアフリー化等、随時実施し適正な維持管理に努めた。 ・各学校のトイレ洋式化・多目的トイレの設置、バリアフリー化等計画を進めている。落雷により被害があった北檜山中学校自動火災報知設備について、緊急工事により対応が出来た。 ・老朽化した校舎の改修等の実施。 	自己評価どおりで良い	B
16	教育の情報化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育用備品購入事業 21,384千円 小学校パソコン教室パソコン更新 ・・・教師用デスクトップパソコン1台×4校 ・・・生徒用ノートパソコン 久遠小学校12台 瀬棚小学校9台、若松小学校4台、北檜山小学校38台 計63台 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器を活用した授業の工夫・改善が図られた。 ・ICTを活用したことにより生徒の授業への集中がみられる。 ・授業・文化祭などで児童生徒が工夫して活用した。 ・計画的にICT環境の整備が行われている。 ・教員のICT活用指導力の向上 	自己評価どおりで良い	B

		小学校タブレット ・ ・ ・ 久遠小学校 5 台、瀬棚小学校 7 台、若松小学校 3 台、北檜山小学校 11 台 計 26 台 ・ サーバー保守管理業務 9,504 千円 パソコン教室 ・ ・ ・ LAN 配線整備 ・ ・ ・ バックアップ用 NAS 設置 ・ ・ ・ 教育支援ソフトインストール)			
17	フッ化物洗口事業の推進	・ 各学校で保護者から実施について承諾の得られた児童・生徒に対して実施を行った。 <平成 31 年 4 月末 実績> ・ 久遠小 31 名 ・ 瀬棚小 36 名 ・ 若松小 6 名 ・ 北檜山小 157 名 ・ 大成中 4 名 ・ 瀬棚中 24 名 ・ 北檜山中 87 名 合計 345 名 (実施率 81.9%)	・ 実施している児童・生徒の歯・口腔の健康増進につながった。 ・ 未実施となっている保護者への啓発を行いながら、今後も継続して実施する。 ・ 未実施になっている保護者への啓発の方法について検討が必要。	自己評価どおりで良い	A
(評価指標) A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である					

令和2年度せたな町教育委員会(社会教育・体育振興)実施事業評価一覧表(令和元年度事業対象)

社会教育・体育振興

推進項目 (事業名)		事業の目的 (目標)	実施状況	自己評価(成果と課題)	外部評価委員意見	評価 R1
18	幼児教育の推進①	幼児教育に関する学習機会の拡充	・枝豆収穫体験 瀬棚保育所園児 20名	・農務課や農業センターと連携して、グリーンパレス横の畑を活用した未就学児への学習機会の提供ができた。 ・ 幼児期に対して、事業を実施できた。 ・計画的な実施が必要である。	自己評価どおりで良い	B
19	幼児教育の推進②	子育ての情報交換や交流の場の提供	・ブックスタート事業(月1回) ボランティア 16名 対象者 33名	・保健福祉課と連携したブックスタート事業を通し、ボランティアの協力を得ながら子育てに関する情報交換の場の提供ができた。 ・ 計画的に実施できた。 ・父親に対する情報提供も必要である。	自己評価どおりで良い	B
20	幼児教育の推進③	関係機関や団体等との連携と協力体制の確立	・ブックスタート事業(月1回)【再掲】 →ブックスタートボランティアとの連携 ・幼児英会話教室については認定こども園や保育所にALTが月2回訪問の実施	・ブックスタートボランティア等の団体と連携し協力体制の確立を図ることができた。 ・ 計画通り実施できた。 ・今後も関係機関と連携し、プログラムを計画的に実施する必要がある。	自己評価どおりで良い	B
21	少年教育の推進①	自然体験や生活体験、集団活動などの学習機会の提供	①生涯学習講座 ・7/11 性教育分野(北檜山中) ・12/5 性教育分野(大成中) ②ふるさと学習 ・6/10 農業体験 1名 高齢者2名 ・8/27 森林学習(北檜山小) ・9/6 森林学習(久遠小) ③北海道ジュニアリーダーコース派遣 ・7/29~31(大成中1名)	・少年期に対して、計画的なプログラムの提供ができた。 ・ 様々なプログラムを提供できた ・農業体験を実施したが、他部局でも実施していることもあり、参加者が見込めないためプログラムの実施について検討が必要である。	自己評価どおりで良い	B
22	少年教育の推進②	異世代交流や地域での交流活動など、地域と連携した学習活動の拡充	ふるさと学習【再掲】 ・6/10 農業体験 1名 高齢者2名 ・8/27 森林学習(北檜山小) ・9/6 森林学習(久遠小)	・計画的な事業の提供ができた。 ・ 地域との異世代交流を図ることができた。 ・計画的に小中学生・高校生・高齢者の異世代交流を図っていくことが必要である。	自己評価どおりで良い	A

23	青年教育の推進①	自然体験や生活体験、集団活動等を通じて主体的に学ぶ意欲を高める学習機会の拡充	・令和元年度において実施実績なし	・実施なし ・計画的に青年教育を進める必要がある。	自己評価どおりで良い	D
24	青年教育の推進②	異世代交流や地域での交流活動など、地域と連携した活動がしやすい環境の整備	・令和元年度において実施実績なし	・実施なし ・計画的に青年教育を進める必要がある。	自己評価どおりで良い	D
25	青年教育の推進③	地域担い手としての自覚を促す学習機会の提供	異業種研修会 ・2/21 若手交流会（ミニバレー・交流会） 10名	・若者が集まる機会を提供できた。 ・ 若者を中心とした取り組みができた。 ・今後も継続して提供し意識を高める必要がある。	自己評価どおりで良い	B
26	青年教育の推進④	リーダーとなりうる人材の育成	異業種研修会【再掲】 ・2/21 若手交流会（ミニバレー・交流会） 10名	・リーダーとなりうる世代に対して事業の提供ができた。 ・ リーダー育成の機会が提供できた。 ・今後も高校生をはじめ青年層と連携した事業の実施によりリーダー育成を図る必要がある。	自己評価どおりで良い	B
27	成人教育の推進①	地域づくりへの理解と認識を深めるための学習機会の提供	・令和元年度において実施実績なし	・実施なし ・計画的に成人教育を進める必要がある。	自己評価どおりで良い	D
28	成人教育の推進②	地域活動への参画支援	①せたな町PTA連合会への支援 ・せたな町PTA連合会補助金 190,000円 ②女性活動促進事業 ・大成区女性団体の支援（随時）	・要望に応じて地域活動への参画支援が行えた。 ・ 女性の活動促進に対して支援が行えた。 ・今後も継続して地域参画支援が必要である。	自己評価どおりで良い	B
29	成人教育の推進③	地域人材の把握と教育活動への参加促進及びリーダーの育成	家庭教育ナビゲーター育成研修会 ・10/31 育成研修会 10名 ・11/23 スキルアップ研修会 7名	・家庭教育に分野における研修会の提供ができた。 ・ 家庭教育ナビゲーターが養成できた。 ・今後も様々な教育分野におけるリーダーとなりうる人材の育成が必要である。	自己評価どおりで良い	B

30	成人教育の推進④	家庭教育に関する学習機会の支援と家庭・学校・地域の連携	家庭教育ナビゲーター育成研修会【再掲】 ・10/31 育成研修会 10名 ・11/23 スキルアップ研修会 7名	・家庭教育に分野における研修会の提供ができた。 ・ 計画どおり実施できた。 ・今後も継続して家庭教育に関する取り組みを進める必要がある。	自己評価どおりで良い	B
31	高齢者教育の推進①	高齢者の知識や経験を地域に生かす社会参加活動の支援	①北檜山小学校花壇花植え ・6/6 花植ボランティア 7名 ②農業体験 ・6/10 枝豆栽培ボランティア 2名	・それぞれが経験を生かし子供たちの指導や補助を行うことができた。 ・ 異世代交流を図るプログラムの提供ができた。 ・プログラム内容の検討が必要である。	自己評価どおりで良い	C
32	高齢者教育の推進②	異世代交流などの場の提供と拡充	①北檜山小学校花壇花植え【再掲】 ・6/6 花植ボランティア 7名 ②農業体験【再掲】 ・6/10 枝豆栽培ボランティア 2名	・それぞれが経験を生かし子供たちの指導や補助を行うことができた。 ・ 異世代交流を図るプログラムの提供ができた。 ・各種事業において高齢者の参加機会を設ける必要がある。	自己評価どおりで良い	C
33	高齢者教育の推進③	いきがいを高める多様な学習機会の充実	①高齢者大学の開設 ・各区高齢者大学の開設 ・北檜山 27名 瀬棚 14名 大成 31名 ②3区合同事業の開催 ・5/14 入学式 ・10/28-29 修学旅行 ・2/18 修了式	・計画通り、充実した内容を提供できた。合同事業では、区を超えた学生相互の交流が図れた。 ・ 各区それぞれの特色を生かした活動が進められた。 ・今後もプログラム内容の工夫が必要である。	自己評価どおりで良い	A
34	芸術文化の推進①	芸術・文化に関する鑑賞機会の提供と内容の充実	①小中学生芸術鑑賞事業 ・9/5 劇団風の子舞台劇「マーレンと雨姫」 ②文化講演会事業 ・10/17 文化講演会「鈴木貴之氏」 82名 ③芸術鑑賞機会の提供 ・10/24～11/24 せたな町美術館 ～せたなの絵描きたち～ 28名 ・町民ギャラリー（手芸） 2回実施	・ニーズに対応した鑑賞機会を提供することができた。 ・ 様々な鑑賞機会を計画的に提供できた。 ・周知方法について検討が必要である。	自己評価どおりで良い	A
35	芸術文化の推進②	文化団体の育成と自主的活動の支援	①せたな町文化協会への支援 ・せたな町文化協会補助金 200,000円 ②せたな町民文化祭実行委員会への支援 ・町民文化祭実行委員会補助金 500,000円 ・町民文化祭（3会場） 展示 北 11/2・3 瀬 11/2・3・4 大 11/2・3・4 発表 北 11/17 瀬 11/9 大 11/10	・文化活動の推進と日頃の作品を発表する機会の提供ができた。 ・ 計画的な支援ができた。 ・今後は後継者を図る取組みについて、団体と検討する必要がある。	自己評価どおりで良い	A

			<ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞事業実行委員会補助金 950,000円 9/7 ひとり人形劇まる 90名 12/2 ひめこぶしの世界 103名 2/13 音楽のおくりもの 318名 ③団体と連携した事業の実施 ・11/8 サンデーカルチャー 37名 ・1/7 新春書初め大会 13名 			
36	文化財保護の推進①	文化財・郷土資料の保護・活用	<p>①郷土資料館等施設の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/4～7/7 国立アイヌ民族博物館PR展 87名 ・6/11～7/7 大成郷土館特別展示「大成町が生まれたとき」 53名 ・11/26～12/8 情報センター特別展示「丹羽五郎と西南戦争」 62名 ・2/4～2/27 情報センター特別展示「雛人形展」 46名 ※新型コロナウイルスで閉幕が4日早まる ・2/15～2/27 生涯学習センター特別展示「せたな発掘ものがたり～南川遺跡編～」 21名 ※新型コロナウイルスで閉幕が15日早まる <p>②文化財を活用した各種事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/29 ムックリ(アイヌの楽器)製作体験 16名 ・9/7・9/21 せたなの太古 計17名 ・9/21・9/29 子ども歴史教室 計5名 ・10/6・10/20・10/26 子ども考古学教室 計19名 ・10/26 勾玉作り体験 12名 ・11/16・11/30・12/7 せたなの古代 計20名 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財等の保護については、文化財保護審議員と連携し適正な維持管理を行った。 ・特別展示を行い、小学生から一般町民に対し広く、文化財保護の啓発・普及が図られた。 ・文化財を活用した講座を行い、文化財に関する学習機会の提供が図られた。 ・考古・歴史系の講座が多いので、自然系の講座等他分野の講座実施が必要である。 ・文化財保護の基盤である、埋蔵文化財台帳の整備、各文化財の適切な保存処理が必要である。 	自己評価どおりで良い	A
37	文化財保護の推進②③	郷土芸能伝承活動の推進・発表等の機会の提供による後継者の育成	<p>①せたな町郷土芸能団体連絡協議会への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能団体連絡協議会補助 117,699円 <p>②郷土芸能伝承に係る指導業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大成中学校の総合的な学習の時間での指導業務(久遠神楽) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体運営に対する活動補助・支援が継続的に進められ、町外イベントへ自主的に参加している。 ・学校との協働により、学校経営に位置づけた取組みとして郷土芸能の伝承ができた。 ・次年度から休止していた団体が活動を再開することとなった。伝承活動を継続できるよう今後も支援が必要である。 ・伝承活動を継続できるよう今後も支援が必要。 	自己評価どおりで良い	B

				<ul style="list-style-type: none"> 大成中学校の生徒数の減少により、各パート構成が困難に成りつつある。今後の伝承活動の方向性も検討する必要がある。 		
38	国際交流の推進①	国際感覚を身につけるための学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> 少年少女英会話教室 小学3~4年 16名 27回 英会話教 中学生以上 23名 初級30回・上級6回 8/16-17 イングリッシュキャンプ 1泊2日 23名 1/9-13 海外派遣事業（シンガポール） 4泊5日 3名 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学習機会の提供ができた。 各年齢期に事業提供ができた 海外派遣事業について、隔年実施等を検討し、一定の参加者の確保が必要である。 	自己評価どおりで良い	A
39	国際交流の推進②	姉妹都市交流における青少年・成人交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市交流推進協議会補助金 150,000円 5/23 ジョン神塚ピアノコンサート 	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り団体支援が行えた。 次年度以降解散予定。 今後の取り組み方について検討が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
40	国際交流の推進③	留学生受け入れ家庭の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度において実施実績なし 	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ家庭の確保が難しい 今後の取り組み方について検討が必要である。 	自己評価どおりで良い	D
41	読書活動の推進①	ブックスタート事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ブックスタートパックの配布 3カ月・4カ月健診時 対象33名 1歳6カ月、3歳、5歳児健診時の読み聞かせ 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児から絵本に親しむ環境づくりとして定着している。 ブックスタート後から、図書施設へ足を運ぶ家庭が増えている。 フォローアップは絵本やパズルに興味を示す幼児が増え、日頃から家庭で本を読んでいる環境が多く見受けられる。 乳幼児～幼児の気をひく原色を使用した絵本の選書を行うなど、乳幼児により効果が高い読み聞かせが来ている。 今後も継続し、本に親しむ環境整備を進めたい ブックスタートパックの中身の検討が必要である。 	自己評価どおりで良い	A
42	読書活動の推進②	図書館・学校図書館・関係団体との連携協力による読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ブックフェスティバル 7/11 久小 7/17 北小 10/25 瀬小 図書館 de カフェ 10/22 情報センター74名 10/21 大成図書館 38名 1/19 生涯学習センター52名 読み聞かせイベント（おはなし広場等） 学校図書室支援員派遣 62回 一日図書館（室）職員体験 延べ20名 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な事業実施により読書へ親しむ子どもの数は増加している。また、各事業を各区で実施することで町内全域の読書活動推進を図る取り組みができた。 児童生徒の読書活動の拡充が図られた。 読書推進計画に基づく事業の実施が必要である。 	自己評価どおりで良い	A

4 3	読書活動の推進③	読み聞かせなど子どもに関わる読書ボランティア活動の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア 16 名 ・ブックフェスティバル【再掲】 7/11 久小 7/17 北小 10/25 瀬小 ・図書館 de カフェ【再掲】 10/22 情報センター74 名 10/21 大成図書館 38 名 1/19 生涯学習センター52 名 ・読み聞かせイベント（おはなし広場等）【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り活動が実施できた。 ・ボランティアが対応できないときは職員及び図書館職員による読み聞かせで対応できた。 ・一名の新規ボランティアの獲得ができた。 ・ボランティアが固定化されているので新しいボランティアの育成が必要である、 	自己評価どおりで良い	A
4 4	読書活動の推進④	図書・視聴覚などの学習教材の充実	<p>図＝図書購入（一般書・児童書・専門書等） 雑＝雑誌 新＝新聞 D＝DVD 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報センター 図 366 冊 雑 206 冊 新 2 種 D1 本 ・大成図書館 図 317 冊 雑 204 冊 新 2 種 D0 本 ・生涯学習センター 図 346 冊 雑 148 冊 新 2 種 D2 本 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書等の充実により、読書活動の推進が図られた ・計画通り進めることができた。 ・生涯学習センター図書室の充実を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
4 5	生涯スポーツの推進①-1	スポーツの日常化に必要な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・5月～10月 キッズ体操教室 6回 64名 ・5月～10月 フォローアップ教室 6回 34名 ・6月～10月 訪問キッズ体操教室 3回 40名 ・7/1 プールの安全講習会 8名 ・7/29～30 幼児水泳教室 2回 17名 ・7/29～8/2 初心者水泳教室 5回 179名 ・7/31～8/2 水泳フォローアップ教室 3回 109名 ・8/2 スポーツアカデミー（深川サッカー教室）19名 ・8/6～8 水中トレーニング教室 3回 180名 ・8/7～28 アクアピクス 3回 41名 ・8/17～31 シニア水泳教室 5回 61名 ・10/1～16 泳力検定向けレベルアップ教室 3回 27名 ・10/19 スポーツアカデミー 講演会 （陸上十種競技 右代啓介選手） 95名 ・10/26 スポーツアカデミー（ファイターズ野球教室）61名 ・11/17 スポーツアカデミー2（野球塾）31名 ・12/16 2/10 トレーニング講座 2回 100名 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室とも、専門知識の習得や運動の基礎、実践を学習する機会として大いに活用されており、競技力向上や基礎体力向上の促進につながっている。 ・年代別のニーズに合わせて、提供できている。 ・参加者が固定されているため新しいスポーツ種目の発掘が必要。 	自己評価どおりで良い	A

			<ul style="list-style-type: none"> ・1/15～17 初心者スキー教室（北檜山区） 3回予定 ※雪不足の影響による中止 ・1/14～23 スキー教室（大成区） 3回予定 ※雪不足の影響による中止 ・2/5、12 からだケア講座 2回 13名 ・2/15 ノルディックウォーキング（浮島公園）6名 ・3/29 元気なカラダづくり教室 ※新型コロナウイルスにより中止 ・3月 スポーツアカデミー2（エスポラーダサッカー教室） ※新型コロナウイルスによる中止 			
46	生涯スポーツの推進①-2	スポーツの日常化に必要な学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・5/8 水仙まつりロードレース大会 290名 ・10/5 町民駅伝競走大会 39名 ・10/13 みんなで歩こう会 ※台風中止 ・10/22 泳力検定会 乙部町 3名派遣 ・1/11 子ども体力チャレンジ祭 40名 ・2/2 ミニミニ大運動会 大成区 49名 ・町民スキー大会(雪不足により中止) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体との連携のもと、概ね計画通り進められており、スポーツ活動の促進が図られている。 ・概ねの事業を計画的に実施できた。 ・参加者をさらに増やすため、町民のニーズを知り、事業内容や周知方法を検討する必要がある。 	自己評価どおりで良い	B
47	生涯スポーツの推進②	誰でも気軽に行うことができる軽スポーツ等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・1/14 ニューススポーツ交流会 42名 (カーリンコン、ドッチビー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーリンコン等の交流大会を開催し普及ができた。 ・徐々に情報提供が進められてきた。 ・普及のため、職員の研修が必要。 	自己評価どおりで良い	B
48	生涯スポーツの推進③	スポーツ団体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町スポーツ協会補助金 850,000円 ・せたな町スポーツ少年団連絡協議会補助金 1,850,000円 ・せたな町スポーツフェスタ実行委員会補助金 162,000円 ・総合型地域スポーツクラブとの連携・支援 ・各開催事業への後援 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の活動活性化が図られた。 ・各団体の運営に対する活動費助成や支援が出来た。 ・計画通り支援ができた。 ・新たな合宿制度について、受け入れ団体と協議の上、検討していきたい。 	自己評価どおりで良い	A
49	生涯スポーツの推進④	指導者の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・9/30 水泳リーダー講習 水泳指導者 16名 ・10/29 キッズ指導者講習会 保育士 12名 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの基礎運動能力を高めるための基本的な指導法について、保育士や水泳指導者に学びの場を提供できた。 ・指導者講習会を計画的に実施できた。 ・町民のニーズに合わせ、様々な分野の指導者の育成を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	B

50	海洋スポーツの推進①	青少年に対する自然観察などを含めた体系的な学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・水に賢い子どもを育む年間型プログラム事業 ・6/26 川の自然観察（講話・現地で水生生物観察）北小4年生 ・7/9 水に親しむ活動（カヌー体験・漂流物調査）北小4年生 ・7/18 水辺の安全教室着衣泳（せたな町民プール）北小4年生 ・9/18 海の資源観察（ニシンの放流・魚の水揚げ見学）鵜泊漁港 北小4年生 ・5/13 海の自然観察（海藻押葉作りの為の海藻採り）瀬小3,4年生 ・6/5 川の自然観察（講話・現地で水生生物観察 馬場川）瀬小3,4年生 ・6/10 海の資源観察（ニシンの放流・魚の水揚げ見学）瀬棚港 瀬小3・4年生 ・7/5 水に親しむ活動（カヌー体験・漂流物調査）瀬小3,4年生 ・7/12 水辺の安全教室着衣泳（B&Gプール）瀬小3,4年生 ・8/26 森の自然観察（森林観察・講話）愛知地区原田氏森林 瀬小3,4年生 ・10/24 海の環境を守る植樹教育活動（植樹祭への参加）瀬小3,4年生 ・10/25 海の自然観察（海藻押葉作り）瀬小3,4年生 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施された。 ・学校との協働による取組みとして定着している。 ・対象校の拡大により、地域の資源を使い充実した内容、水辺の安全について提供できている。 ・計画どおり実施できた。 ・今後の課題はなし。 	自己評価どおりで良い	A
51	海洋スポーツの推進②	水の事故を防ぐための安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の安全教室着衣泳体験 7/12 瀬棚小学校3～4年生 【再掲】 7/18 北檜山小学校4年生 9/2 久遠小学校5～6年生 	<ul style="list-style-type: none"> ・着衣泳の実施対象校の拡大により、水辺の安全について多くの子どもたちに伝えることができています。特に、夏休み前に実施している学校については、夏休み中の水上事故を防ぐことに繋がっている。 ・水辺の安全教室を行うことにより、子どもたちの夏休み中の水上事故等を防ぐことに繋がっている。 ・水の事故を防ぐため、多くの町民の関心を高めるよう、海洋スポーツの普及啓発が必要である。 	自己評価どおりで良い	B

5 2	海洋スポーツの推進③	マリンスポーツ体験や講習会等の学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・6/22 プールでOPヨット体験会・カヌー体験会 小学生9名 ・7/14 海の日（カヌー・SUP・セイリング教室） 小学生1名 ・7/29～31 B&G塾（海洋センターを活用した学習と体験活動による子育て支援事業） 瀬棚小学校全学年 49名 ・9/1 カヌーで川下り体験（利別川） 5名 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は計画どおり実施された。 ・天候により実施できないプログラムもあったが、室内でのレクリエーションに切り替えるなどし、体験活動を提供することができた。 ・計画的に行うことができた。 ・事業として安全に行うことが出来たが、参加者が少なかったため、参加者が増える取組みを考えていきたい。 	自己評価どおりで良い	B
5 3	海洋スポーツの推進④	海洋クラブ・指導者会の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬棚海洋クラブ補助金 188,100円 ・北海道ブロック・スポーツ交流交流会 新篠津村 小学生3名 引率2名 ・7/25～26 リーダー養成研修会 3名 	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣事業を通し、町内で学ぶことのできない体験活動を提供できている。 ・指導者養成は、計画的に実施していくことが必要であるため、今後も継続して実施する。 ・リーダー養成研修を充実させることができた。 ・指導者会との円滑な連携強化が必要である。 	自己評価どおりで良い	B
5 4	海洋スポーツの推進⑤	専門指導職員の育成・配置	<ul style="list-style-type: none"> ・5/24～7/5 センターインストラクター養成研修（沖縄県）1名 ・7/25～26 リーダー養成研修会 3名【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターインストラクターを養成し、指導者体制を整えることができている。 ・一般の利用を受け入れている7～8月には、養成したリーダーを活用し指導体制の充実を図ることができている。 ・計画どおりできた。 ・B&G運営に必要な専門指導職員の配置の他、各種事業を進めるためのリーダー養成を計画的に進める必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
5 5	社会教育・社会体育施設の整備①	施設機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・濾過循環ポンプ取替修繕（B&G海洋センタープール） 529,000円 ・艇庫屋根折板先修繕（B&G海洋センター艇庫） 594,000円 ・格納庫軒下塗装修繕（B&G海洋センター艇庫） 281,000円 ・赤外線バーナー改造修繕（B&G海洋センター体育館） 847,000円 ・フェンス修繕（瀬棚スポーツ広場） 187,000円 ・電気取付修繕（夕陽が丘パークゴルフ場） 49,000円 ・第2キャリエースワイヤーロープ交換修繕（大成スキー場） 484,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設とも住民の社会教育・社会体育事業の拠点として利用されているため、必要に応じた整備が実施できた。 ・計画どおり進めることができた。 ・今後も改修・整備については、計画的に進めていく必要がある。 	自己評価どおりで良い	A

56	社会教育・社会体育施設の整備②	施設の総括的かつ効率的な維持と運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年7月5日にせたな町民プール開館 	<ul style="list-style-type: none"> ・せたな町民プール開館。年間通して町内外から6,825名の利用があった。 ・計画どおり進めることができた。 ・せたな町民プールの施設の有効活用及び実施事業の検討を図る必要がある。 	自己評価どおりで良い	A
----	-----------------	---------------------	--	--	------------	---

(評価指標) A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である